

第十四回目

石樽南 演暢寺 清原 秀史師



発行責任者

員弁組連研部会長

蓮成寺 藤田 智善

第十四回目のテーマ

「この連研を通して、感じたことと気づいたこと、うれしかったことを話し合ってください」

【皆さんのご意見】

1. 連研を受けて、変わったこと、変わらなかったことは何ですか。

▽変わったかと言われると、変わってないと思う▽お寺が身近になった▽我が家の仏壇のお飾りが気になり、お参りする回数が増えた。作法やお飾りをすべて良かった▽話し合いでは、普段考えないテーマについて考えさせられるよい機会になった。また、自分が考えてもみないような意見に触れることができて、勉強になった。ただテーマはやはり難しいものが多かった▽お寺を超えて多くの方と交流ができて、たくさんの方の意見にふれて勉強になった。班の皆さんと知り合えてよかった▽ほかのお寺にお参りして、参考になった▽宗教の勧誘に自分の信仰があるので、応えられる

ようになった

2. 連研を受けて、浄土真宗とは、どのような教えだと思えますか。

▽浄土真宗は分け隔てのない教えだと感じた▽穏やかな宗教だと感じた▽自由で民主的な教え

3. あなたはこれからどんな人生を送りたいですか。そして何を大切にしていきたいですか。

▽お仏壇に手を合わせることの大切さを伝えたい▽お寺の活動に協力したい▽若い人にお寺に関わって欲しい、若い人にこそ連研を受けて欲しい▽疑問が残ってしまうので、質問に答えてくれる場が欲しかった。教えの中心が聞きたかった。

【まとめ】

今回連研を受講された方は、まとめて仏教を学んだ経験のないいわゆる初心者の方が大半のようです。仏教やお寺の印象からすると、この「連研」という学びは少し受講者の方々の事前の予想とは違っていた印象の方が多かったように見受けられます。多くの方は仏教の思想や浄土真宗の教えを学ぶというつもりで参加したが、それとは違って平生は考えない難解なテーマについて話し合い意見を発表しあう形にとまどった方も見受けられま

月した。

8 これは連研の目的が仏教の知識を身につけることが目的で無く、仏教を通してお一人お一人ひとりが自分自身に向き合っていたり、1を目的の一つとしていているからです。仏道をなろうというは己をならうなりという言葉があります、これまで身につけてきたもの知識、

価値観、先入観そういったものをそれぞれ前に並べて取捨していく作業を連研の話し合いを通して、仏さまというまなざしを通して行っていたり、場にしていただきたいのです。

よ り

連研受講を通してそんなに変わった自覚はない方が大半のようでしたが、変わったというのは「ころっと変わった」と自覚できるケースはまれです。変わるというのとは何か、「気になるようになった、いい加減にできなくなった」というところからはじまります。「学んだことの証しは、ただ一つで、何かがかわることである。」『学ぶということ』教育哲学者の林竹二さんの言葉です。

期 1 第 1

「学ぶということとは、覚えこむこととは全くちがうことだ。学ぶとは、いつでも、何かはじまることで、終ることのない過程に一步步みこむことである。一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことではないか。学んだことの証しは、ただ一つで、何かがかわることである。」連

研を受講して、作法やお飾りのことを聞いて気になることができた。話し合いの中から、心に残った意見を聞いた、自分の思いを語り受け取ってもらえた、そんな経験から始まるのです。連研を修了して終わりではなく、生活の場を通した終わることのない学びに踏み込んだとご理解ください。

また、連研の特徴は、講師の一方的な講義をきくのではなく、受講者がお互いのうけとめを語り合い、聞き合うことに意味があります。異なった意見から学び、また語られる思いに共感する場が広がるのが連研の話し合い法座です。

2009年の門信徒会運動40周年・門徒推進員20周年記念法要の大谷光真 前門さまのご親教に「南方仏教に伝えられる經典によりますと、ある時、阿難尊者はお釈迦さまに尋ねられました。「大徳よ、私たちが、善き友をもち、善き仲間とともにあるということは、すでにこの聖なる道の半ばを成就したに等しいと思えますが、いかがでしょうか」。すると、お釈迦さまは「阿難よ、善き友をもち、善き仲間とともにあるということは、この聖なる道の半ばにあるのではなくして、まったくそのすべてなのである」(相応部四五)とお答えになっています。

また、宗祖親鸞聖人は、ご和讃に「他力の信

心うるひとを うやまひおほきによるこべば

すなはちわが親友ぞと 教主世尊はほめたまふ」(正像末和讃)と述べられました

この連研の受講を、終わることのない学びを、これからも仲間と時間を共にすることに より深めていくきっかけにさせていただきたいと思えます。

《仏事作法おさらい》

正信偈の唱法(4)

日常勤行聖典 P42 参照

- ・レ音の出だし、如虚はミソラミで。
- ・念仏三行目に注意する。
- ・P43はラ音の出だしに注意。
- ・光明IIラ↓ミ↓ラとなめらかに。
- ・P45の願以はミの出だしで。
- ・平等IIミソラミで。
- ・最後の楽国で金を三回打つ。